

# 大謝名小のスタ場!!!

2023, 3, 2(木)

第59号

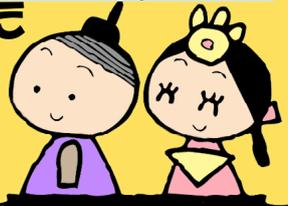
宜野湾市立  
大謝名小学校

校内新聞

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。

のちに中山王(ちゅうざんおう)となり、  
中国と貿易をした  
2ページあります

## 察度(さと)の伝説



大謝名小学校の正門を出て、左の方に写真の看板があるのに気づいていますか? 「黄金宮(くがになー)」とは、沖縄で初めて中国の歴史の本に名前が記された王様で、「黄金宮」は察度の住んでいた場所です。去年は、察度王が生まれて700年目でした。今年は生誕701年の年にあたります。



察度は、多くのよいことを成しとげた人で、宜野湾市の偉人(いじん)の一人でもあります。しかし、言い伝えが多くて、はっきりわからないことやナゾの多い王様なのです。

察度王は、真志喜にある「森ぬ川」に伝わる「羽衣伝説(はごろもでんせつ)」に深い関わりがあります。

羽衣伝説を紹介します。

昔、奥間子(おくましー)という人がいたそうです。

この人が畑からの帰りに、森の川で手足を洗っていると、みたことのない美しい着物が木にかけてありました。奥間子はその着物を見て「こんなに美しい着物を着る人はここにはいないけどなあ。めずらしい物だから我が家の宝物にしよう」と思い、家に持ち帰って、蔵の中に隠しました。

(文責: 玉村かおり)



わあ、びっじ〜ん!!



うちにおいて



どうしよう…

森の川でみずあびをしていた天女が帰ろうとすると、自分の着物がなくなっていました。

天女が着物を探しているときに、奥間子が声をかけました。「着物がないなら、私の着物をかしてあげよう」といって、天女を家に連れて行きました。

やがて、二人は夫婦になって、女の子と男の子が生まれました。

あるときに、姉が「こんなに泣いたら、倉の中にある飛(と)び衣(ごろも)を着せてやらないよ。よしよし泣くなよう」と、泣いた弟をあやしていました。

これを聞いた天女は、倉にあった着物を見つけ、それをまとめて天に帰って行きました。

さて、このとき天女の子として生まれた男の子が察度でした。

泣いたら、倉の中にある飛び衣(羽衣)を着せてやらないよ。よしよし、泣くなよう



それなら、畑にたくさんあるよ

察度さま、これは黄金です!



ある日、察度は勝連按司(かつれんあじ)が娘むこを探しているという話を聞きつけ、みずぼらしい格好で城へ行きました。

娘は、察度を見て「この人は徳がすぐれているので、この人の妻になります」と言って、察度と結婚しました。

察度の家は謝名の黄金宮(くがになー)にありました。妻は、かまどの石が黄金、つまり金でできていることに驚きましたが、察度は「それは、畑にたくさんある」と言いました。

察度は、ここから掘り出した金を鉄と交換して、くわやへらをつくり、農家に配ったことでみんなから信頼されるようになりました。

そして、伊祖城の按司になり、浦添城の按司になり、中山王になりました。



その後、察度は、中国との貿易やアジアの国々との交流をはじめ、他の国のよさを工夫して取り組みました。このことは、琉球の人々のくらしや文化を豊かなものにしてくれました。